

事前アンケート 作成委員より

問1 「乳がんの薬物療法(抗がん剤、ホルモン治療、分子標的治療)の役割は増加しており、一方で手術療法の役割が年々減少している」という情報についてあなたは？

【解説】

以前は乳がんの治療といえば手術療法がその大半を占めていましたが、最近では薬物療法の発達により薬物療法の役割の比率が年々増加し、手術療法の占める割合は年々減少してきていると言えます。

問2 「乳がんの手術は、大きく切除するほど整容性(見栄え)は低下するが、乳がんによる生存率は高くなる」という情報について

【解説】

乳がんの手術では、乳房を大きく切除せず縮小手術をすると残った乳房への再発率が少し高くなりますが、生存率そのものは変わらないとされております。

問3 「乳がんの手術はここ数十年のあいだではだんだんと縮小化したが、ここ数年に限ってみると乳房再建の普及に伴い、乳房温存率が減少し、乳房全摘術が増加している」という情報について

【解説】

日本では乳がん術後の乳房再建の普及率は年々上昇しております。再建をする際には乳房温存療法でなく乳房全摘が必要です。

事前アンケート 作成委員より

問4 「抗がん剤治療とホルモン治療とでは抗がん剤の治療の方が効果は強いが副作用も強い」という考えについてあなたは？

【解説】

一般にホルモン治療よりも抗がん剤治療の方がおしなべて効果が強いと考えられておりますが、乳がん治療においてはホルモン治療の方が抗癌剤治療よりよく効くケースは決して珍しくありません。

問5(1) 乳がんにはホルモンに影響されるタイプ(ホルモン感受性)の癌と無関係な癌の2種類があることについてあなたは？

【解説】

乳がんには、女性ホルモンやHER2遺伝子に関連するタイプとそうでないタイプがあります。これらの組み合わせによって分類されるタイプ(これをサブタイプといいます)ごとに再発率や効果が期待できる薬剤も異なるため、最近ではサブタイプを重視して治療方針を決定するようにしております。

問5(2) 乳がんにはHER2という増殖因子を持つ癌と持たない癌の2種類あることについて？

【解説】

乳がん診療はまさに日進月歩でありどんどん進化しております。検査法、術式、使用する薬剤の種類、再発後の管理法などいずれも以前と比べて大きく変わってきています。

事前アンケート 作成委員より

問7 「ホルモン受容体陽性乳がんに対し、抗エストロゲン剤やアロマターゼ阻害薬等のホルモン療法剤の登場で、生存率が大きく改善した」ということについて

【解説】

日本では約30年前からホルモン受容体陽性(女性ホルモンに依存している)乳がんに対してホルモン療法が行われるようになりました。これにより生存率は大幅に改善しました。

問8 抗HER2治療薬が進行再発乳癌に対して日本で使えるようになって12年経ちましたが、術後補助療法として使えるようになってからの期間は？

【解説】抗HER2治療薬が術後補助療法として日本で使えるようになったのは2008年2月です。

問9(1) 経口抗がん剤が主流の時代があったことについてあなたは？

- (2) しこりが大きいと抗がん剤をするべき？
- (3) リンパ節転移が一つでもあれば抗がん剤をするべき？
- (4) 抗がん剤を術前と術後のどちらにした方が、生存率が高い？

【解説】乳がん治療において、抗がん剤の種類やその使用法も時代とともに大きく変化してきています。1980年代から90年代にかけては経口抗がん剤が主流で、またしこりの大きさやリンパ節転移の有無などを基準に抗がん剤を補助療法として使用するかどうか決定していました。また現在では、抗がん剤を術前に使用しても術後に使用しても生存率は同等とされており、乳がんの進行度やそのがんの性質などよりこれらを使い分けております。

事前アンケート 作成委員より

問10 「乳がんで骨に転移がある場合、以前薬が無かった時代は、ほとんど何も為す術もなく、骨折しないように患者さんはただ、長年寝たきりになっていた。」という情報についてあなたは？

【解説】

以前、乳がんの骨の転移に対しては、骨折を予防するためにやむを得ず長年寝たきりになって過ごした時代がありました。現在ではゾメタやランマークといった骨折予防の薬剤の登場や鎮痛剤の発達などより、骨に転移してもなるべくQOL(生活の質)を落とさずに過ごせるようになりました。

問11 術後補助療法の選択は、再発リスクを低下させるメリットと、副作用や費用の問題などのデメリットとの天秤によって決定されます。この選択は誰の意見を参考にするべきだと思いますか？

【解説】

術後補助療法の選択は非常に迷うケースも少なくありません。主治医の説明をもとに家族や友人、場合によってはセカンドオピニオンなども参考にして、最終的には皆で決定する姿勢が理想と思われます。

事前アンケート 作成委員より

問12 センチネルリンパ節ではなく、脇の下のリンパ節を取る(腋窩リンパ節郭清術)乳がんの手術をした場合、手術後はリンパ浮腫になる頻度は？

【解説】

腋窩リンパ節郭清後に上肢のリンパ浮腫になる頻度は10～30%程度と考えられております。

問13 「乳がん治療薬におけるジェネリック医薬品(後発医薬品)は、先発品と比べ、その効果や副作用が劣る可能性があるため使用しない方が良い」という情報について

【解説】

乳がん治療薬においても後発医薬品(ジェネリック医薬品)が多くみられるようになりました。効果や副作用は先発医薬品と同等とされております。

事前アンケート 作成委員より

- 問14(1) 将来、期待の新薬・新しい治療法は、例え治験の段階でも受けてみたい？
(2)上記で(受けたくない)と答えた方、その理由は何ですか？

【解説】

様々な新薬は必ずいくつかの治験を経て登場してくるわけですので、治験は必要不可欠なものですが、いざ自分が治験を受けるかどうかということになるといろいろとご意見も多いことと思います。

- 問15 サプリメント等を飲んでいますか？

【解説】

乳がんの予防に効果あると謳われているサプリメントはいくつかありますが、乳がんの予防効果として強くお奨めできるサプリメントは今のところありません。経済面やご自身体質に合うかどうかなどよく検討して使用されるのがよろしいかと思えます。

事前アンケート 作成委員より

問16 乳癌の診療において、今後どのように変わって欲しいと思いますか？

【解説】

乳がん診療は今後も進歩し続けると思います。乳がんと告知されても今ほどショックを受けなくても済むような、もっと信頼性の高い確立された治療体系が整うことを願っています。